

第10回GX実行会議  
提出意見

2023年12月15日  
(一社)日本経済団体連合会  
会長 十倉 雅和

標記会議の持ち回り開催にあたり、下記の通り意見を提出いたします。

記

1. 今回示された分野別投資戦略は、Hard-to-abate 産業を含む主要分野ごとに、現状分析と将来の方向性を踏まえ、OPEX 支援や市場創造を含む具体的な投資支援策等を明記した、骨太な内容になっており、評価できる。
2. 同戦略を着実に実行し、国内投資を推進していくためには、安定供給を確保しつつ、エネルギーの脱炭素化を実現することが不可欠である。そのため、再生可能エネルギーの主力電源化とともに、核エネルギーの活用を最大限に進めるべきである。具体的には、原子力発電所の再稼働・リプレースはもとより、国際競争を踏まえた高速炉・高温ガス炉などの次世代革新炉の社会実装に取り組む必要がある。また、2050年カーボンニュートラルに向けて、核融合発電の開発にも、同時に力を入れて取り組むべきと考える。
3. カーボンプライシング賦課における Hard-to-abate 産業の取扱いにおいても同様であるが、今後、GXを進めていく過程においては、技術動向や内外の情勢変化等を十分見極める必要があり、分野別投資戦略が想定している前提が大きく変化することも考えられる。今回の戦略は、「初版」という位置づけであることから、真に効果的な支援の観点も含め、今後生じる様々な変化に「アジャイル」に対応できるよう、不断の見直しを重ねていくべきである。
4. 今回のGXに関する具体的方向性が、わが国のカーボンニュートラルの実現はもとより、アジアをはじめとする海外の市場の取り込み、ひいては、わが国経済の成長につながることを期待する。経済界としても、GXの実現に向け、しっかりと取り組んでいく。

以上